
スーパー おかん！

雅

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

スーパ― おかん！

【Nコード】

N6119D

【作者名】

雅

【あらすじ】

おかんの意味ありげな怪しい笑顔は、ときに凶器となつて春日亜実に降りかかる。おかしなふたりの、素敵(?)な日常をご紹介。

戦略1・凶器は笑顔（前書き）

みなさん始めまして。春日亜実です。どうぞよろしく。この物語は基本的に、おそろしい母と、それに振り回される娘（亜実）の Comedy 要素満載のもので。どうぞ亜実の苦勞を笑い飛ばしちゃってくださいなっ！

戦略1・凶器は笑顔

世の中いろんな意味で困った人がたくさんいる。考えてみたら・
・私のおかんも変人だろうか？みんなが、羨む私のおかん。それでも、私にとっては、ただの変人。

これから話すことをよく聞いて、読んで、みなさんにおかんが変人かどうかを判断してもらいたい。私は、語りだけで十分。どうか、みなさん。客観的におかんを見てくださいつ！

事の発端は、私が生まれてきたこと。そうは言っても、私が悪いわけではない。たぶん……。

「ほおら、亜実っ！おかあさんが買ってきた肌着、見るう??？」

どうも、春日亜実、11歳です。

日本一ストレスを抱える小学生（自称）である私の一番のストレス。それは、何を隠そうおかんの事だ。つまり、先ほどの歌うような発言者は、43歳のおかんだったっていうわけ。

「今日ねえ、おかあさん、デパートに行く機会があったのよお。それで、買ってきたってわけ！」

そう言っつて、おかんは私におそろしい物体を差し出した。
なんか、白いし……っつてか、気持ち光ってません？

「なにこれ」

私は受け取ることを多いに拒んだ。

よく見ると、おかんがにこやかに差し出したのは、ジャスト150cmサイズ用の、微妙な肌着だった。

お・・・おそろしいっ！

フリルが無駄にくつついていて、てかてかのスパンコールがなぜかへそのあたりを中心に円を描いている。

あもう、お母様っ！今はいちおう21世紀では・・・

「いいよ、着ない」

私にしては最高の、やんわりとした遠慮。しかし、おかんの力、偉大なり。娘の遠慮部分ははっきり無視して、私にキョウキ笑顔を向けた。

「亜々実ちゃあん おかあさんは似合うと思うなあ・・・」

出た・・・

「おかあさん、一生懸命選んだんだけどなあっっ」

悪魔の微笑み。おそろしいです、おぞましいです。

「私の洋服に合わないと思うな」

たまに自分でも驚く。実の親に、ここまではっきりと言えるものかと。

「ええ。。。仕方ないなあ」

おっ！おかんにしては珍しく短い。対戦時間約5分。でも、私、考えが甘すぎた。ほっとしたのもつかの間、おかんは新

たな武器を用意していた。

「ねっ？厚着したら目立たないってえ」

おかんの新たな武器。それは、季節関係と服の見事なトップピングだった。

おかんは私の服を数着持つてくると、私の目を見た。

”着てみて”の合図に違いない。

ああ、そんな母娘のアイコンタクトも、私にしてみればただの脅し。

”着てみるやあ、ゴルア”

。。。気のせいかなっ？！

私はできる限りの現実逃避を何度か繰り返したものの、ついに折れた。

「着ればいいんでしょあ、着ればっ？！」

”さっさとわかれよゴルア”

おかんの笑顔の奥にはいったい何があるんだ？謎・・・

私はしぶしぶ着替えた。鏡の前に立つと、自分の見事な雪だるま姿に驚く。重ね着の魔力。

「ねっっ？！」

意味ありげ（いや、確実にある）な笑顔。これを、コメディアンとするか、不器用な母なりの愛情とするか。困ったところだ。

戦略1・凶器は笑顔(後書き)

初小説。。。)(ドキドキ

感想、お願いします。定期的に更新するのでっ！

このあとがきも、たまに加えつつ書いていこうと思います

戦略2・午後三時の悪夢（前書き）

今回は・・・おやつバトル！

戦略2・午後三時の悪夢

私はおかんの笑顔キョウキに見事に完敗し、結局あの肌着を着ることになった。

「似合う、似合う」

おかんは自分の娘の変わり果てた姿を見て満足げだ。
今は秋。自分の格好が、つくづく暑苦しい。

「それじゃ、出かけてくるから」

おかんといるとろくな事がない。私はたいした予定もないのに家を出ようとした。

「ええ。。。おやつはっ?!」

リビングで、おかんがわめいている。私は聞こえないように努力しつつ、少々乱暴にドアを閉めた。

「亜実じゃあん!」

やべっ!!これは・・・知り合い?!

私が恐る恐る後ろをみると、案の定、同級生の友里が笑っていた。

「・・・あははっっ!雪だるまつっ?」

友里は私の親友。それにしても、友里。あなたは私が傷つかない人

間だと思いで？

「またおかあさんの仕業かあ」

「・・・よくわかってるじゃん」

たぶん、おかんの素顔を知っているのは友里だけだ。だから、こんな会話が成り立っている。

「気にしないほうがいいよ！うちのおかあさんはそもそも私のこと、あんまりかまってくれないし」

友里が寂しそうに言った。それぞれ苦勞があるってわけ。

「反抗期なんだよねえ・・・うちらも」

私は自分で言ったセリフをもう一度かみ締めた。考えてみたら、私の場合はおかんが反抗期なんじゃないかな。だとしたら（私の中ではほぼ確定）、危険。なんだか憂鬱なまま、その日は友里と別れた。

夕食時になると、私は決まって家に帰る。ここで問題になってくるのは、たいした門限もないくせにやたらと宣戦布告をしたがるおかんだった。今日も例外ではない。

「ああら、遅かったじゃない」

おかんの、にこやかな顔。化粧崩れが目立ち、近くで見ると化粧物状態だった。

「う・・・うん。友里の家に行ってたから」

私の方は、おかんの宣戦布告まで平常心を保って話す。おかんの顔が引きつって来た。これは、いつものパターン。この瞬間に、おかんは化粧ボロボロの、敵意むき出しの化け物になるのだった。

「今日はおやつ奮発してたのにい」

そういう日に限って、おやつはかぼちゃの種のスナック菓子だったりする。これからは、だまされまい。

「そうかなあ？この前はにんじん一本じゃなかった？」

おやつがにんじん一本って・・・ごめん、私は兎じゃない。

「あらっ？そうだったかなあ・・・おかあさんの記憶では、それにスナックエンドウもついていたきがするけどっ」

おかん！残念ながら子供のなかに、おやつに野菜が丸ごと（洗っていない）出されて、飛び上がった喜ぶヤツはいるのだろうか？少なくとも私の周りにはいない。

「私ねえ、もうちょっと一般的なスナックがいいなあ」

私の言葉におかんはにやりと笑った。凶器、発動ですかっ？

「それで、この前はスナックエンドウを出したんじゃない！忘れたの？」

忘れるわけないだろうがぁ！野菜祭りのような悪夢の午後三時を・
。。。

「とにかくっ！私はもっとカステラとか、ポテチとかが食べたいの
っ」

お願いです、お母様！私は柄に合わない心で叫んだ。すると、
おかんは妙な顔（といっても、私にとっておかんの顔は基本的に妙
だ）でこう答えた。

「ポテチ・・・???ポクポクおいものテレカのチケット？何それ、
意味不明」

。。。。ポテチをそんな風に解読するやつがあるかあっっ！！
私とおかんの夕食前の無駄バトルは、ほぼ永遠に続くっ！

戦略2・午後三時の悪夢（後書き）

どうもっ！更新です

これからも見てくださいねっ > <

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6119d/>

スーパー おかん！

2011年2月3日14時26分発行